

吉田中だより

学力特集号
令和元年10月23日
北九州市立吉田中学校
校長 大坪 和廣

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

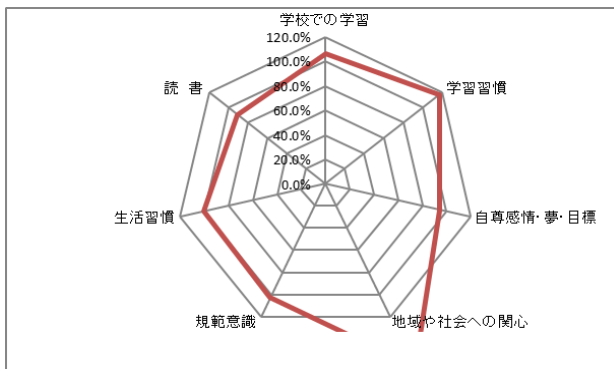
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	・全体的な領域については、全国平均正答率を若干下回っているが、書くことやその能力などについては、上回っている。また、言語についての知識・理解については不十分な面がある。	下回っている
数学	・全国平均正答率と同様、関数に対する知識・理解が不十分な面がうかがわれる。今後も努力が必要である。 ・数学的な見方や考え方、技能においては、全国平均正答率よりも若干下回る程度で、向上する余地がある。	下回っている
英語	・全体的な底上げが必要であるが、読むことについては、他項目に比べて平均正答率が高かった。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・学習習慣においては、一人一人の学習に対する意識がかなり高いことがうかがえる一方、自信のなさが、自尊感情などに影響を与えており、本来もっている力が発揮できていないと思われる。
・地域と連携した活動が多く、多数の生徒が積極的に参加しているため、地域や社会への関心は非常に高い数値を示している。
・今以上に家庭と地域で連携し、ほめて育てる活動を重視し、自尊感情を高める取り組みを行っていく必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・スクールプランに即し、今後とも授業改善を継続して行っていくとともに、各者查や診断テストに向けて、週末課題として1問アップの取組を行っていくよう働きかけを行うとともに、吉田ノートの取組を徹底していくようにしている。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・基本的な生活習慣は十分満足できるものと考えているが、自己肯定感の低さや目標に対する意識が低い。半面、地域とのつながりが非常に大きい。今後、地域を含め保護者、学校とともにほめて育てるなど、自尊感情を高める取り組みを行っていく必要がある。